

「神は、わたしたちの救い主イエス・キリストを通して、この聖霊をわたしたちに豊かに注いでくださいました。こうしてわたしたちは、キリストの恵みによって義とされ、希望とおり、永遠の命を受け継ぐ者とされたのです。」

テトスへの手紙 三：六〜七

中島 聡 牧師

《自己紹介の続きです》 私は関西学院大学神学部に進みました。今、大野順さん、島田尚美さんが同学部大学院に進んでおり、清水ヶ丘と関学の繋がりを覚えます。

神学生として、最初、母教会である大阪西野田教会に遣わされ、故中島恵美子牧師から徹底して教会のトイレ掃除をするように言われたことは、仕える者として良い訓練になりました。

三回生からは、クリスチャン作家・故三浦綾子氏の信仰生活を導いた故川谷威郎牧師（『続・水点』に実名で登場）のもとで、特に説教の備えについて訓練を受けました。川谷先生は、北海道の旭川六条教会という大きな教会から、保育園の保育室に、教会学校の時は子ども椅子を並べ、大人の礼拝になると子ども椅子を片付けて、パイプ椅子を並べる教会に赴任されましたが、説教に注がれる情熱はさまざま

じく、みるみる教会員が増し加えられ、見事な三階建の教会となりました。川谷先生の「いいかね、中島君。牧師は福音を告げ知らせる講壇を死守するのだ。そのためには命懸けで説教の準備をしなさい。」の言葉は忘れられません。

《召天者記念日礼拝の恵み》 少し振り返っただけでも、自分の人生に深く関わって下さった方々が天に召されていることに、さびしさ、命の限りというものを感じます。召天者記念日礼拝では、天に召された大切な人のことが心に迫り来て、悲しみに覆われます。

しかし、また同時にこの礼拝によって、聖書の言によって、「永遠の命」の恵み、希望を新たにされるものでもあります。「私の大切な人は先に召されたけれども、救い主イエス・キリストによって、その命は永遠のものとなった」という恵みです。教会はこの恵みを伝えるために建てられています。

倉持芳雄牧師、ラング宣教師、メーヤー宣教師をはじめ、この教会の礎を築き、「永遠の命」の恵みを継いでこられた多くの先達方も、今、天にあって主イエス・キリストと共に、この礼拝に参じておられるお一人お一人に、この恵みを受け継いでほしいと願っておられます。

《共に恵みを受け継ぎ、伝える》 「永遠の命」を恵みとして受け継ぐということは、今を生きる命を大切にすることであり、一人ひとりが幸せに生きていけるように世に仕えるということです。キリスト教会は日本を今の日本たらしめる決定的な働

きを担ってきました。最たるものは、義務教育を国家の事業として法律で定めさせ、すべての子ども達が教育を受けられ、生まれ育ちに拠らず、本人の努力次第で皆がそれぞれの夢、希望を叶えることができるようにしたこと（『根本正伝』参照）。すべての子ども達ということで、身寄りの無い子ども達を守り育てる孤児院を最初に設立したのもキリスト教会です（『石井重治伝』参照）。また、重い病にあっても最後まで「クオリティ・オブ・ライフ」、命の尊厳を守るようにホスピスを最初に設立したのもキリスト教会です（『聖隷—日本で初めてホスピスを作った長谷川保の生涯』参照）。このようにすべての命を大切に守り育み、永遠にいたるまで祈り求めるのがキリスト信仰なのです。

清水ヶ丘教会は、設立当初、「横浜医療ミッション」として医療に仕えていました。現在は「子どもの教会」、「百合台幼児学園」を通してキリスト教育、幼児教育に仕えています。また、教会から生まれた「Big Hug 1・2」も保育事業（0才〜2才児）を行っています。聖歌隊、ゴスペル・クワイアは、讚美することとおして命の喜びを感じています。毎日曜日の礼拝は心の安らぎを共にできますようにと願っています。

どうか、召天者記念日礼拝に集われたお一人お一人の上に、救い主イエス・キリストの深い慰めの御手があり、共に永遠の命の恵みを受け継ぎ、伝えていくことができますように心よりお祈り申し上げます。